

[講演要旨]1914年秋田仙北地震の人的被害に関する資料について

秋田大学地域創生センター 水田敏彦

1. はじめに

筆者は秋田県の明治以降の主要被害地震を対象に、当時の地方新聞記事、郷土資料、行政資料等からの新たな情報の発掘に努めている。被害地震の一つとして、1914年(大正3年)秋田仙北地震をとりあげ、これまで秋田県内の被害分布¹⁾や震災対応の時系列²⁾を明らかにすることができた。文献調査を進めるなかで人的被害の発生状況や原因に関する資料を見出したのでこれらをまとめてみた。

2. 秋田仙北地震の概要

秋田仙北地震は日本被害地震総覧によれば、1914年3月15日4時59分秋田県南東部で発生したM7.1の内陸地震である。この地震による被害は死者94、負傷者324、家屋全潰640等となっている。震災予防調査会報告第82号(1915)今村の報告のなかで「被害の統計」の項があり、家屋や人的被害の市町村別一覧表、一部集落別の住家全潰数等の一覧表が掲げられている。この資料を基に作成した住家の全潰率及び死者のある町村の分布を図1に示す。家屋の被害は雄物川周辺の低平地と横手盆地に集中している。人的被害は強首村29名、神宮寺町13名と数が多くなっているが、死者の発生は広い地域に分布している。なお、死傷者について震災予防調査会報告では男女別に町村ごとの数字のみが記されている。

3. 人的被害に関する資料

人的被害が示されているものを次に示す。
地方新聞：秋田県内の代表的な地方紙として「秋田魁新報」がある。死者94名のうち人的被害の発生状況に関する記事が55名掲載されている。全て家屋倒潰によるものである。
震災関係書類土木課：各土工区の震災に関する電話報告が詳しく書かれたもので、罫紙を二つ



図1 秋田仙北地震の被害分布
(死者のある町村名 数字は住家全潰率%)

折りにした和綴の簿冊である。死亡者調査表には94名分の住所、氏名、年齢が掲載されている。図2に表紙、報告書、調査表の例を示す。
大沢郷村震災史：震源地近傍大沢郷村の被害状況を役場で取り纏め、1918年に発行している。死亡者の氏名、年齢、原因を記した表がある。

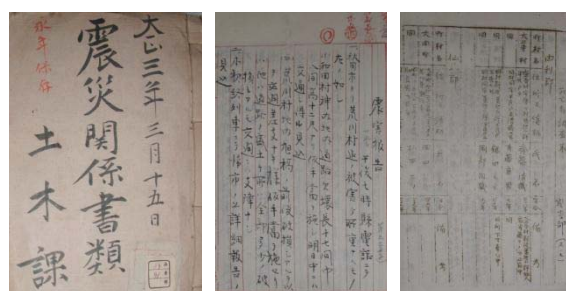


図2 震災関係書類土木課

(左:表紙 中:報告書例 右:死亡者調査表の例)

4. おわりに

人的被害の発生状況とその要因を整理し、防災教育の基礎資料にもしたいと考えている。

参考文献

- 1) 水田敏彦, 鏡味洋史: 1914. 3. 15 秋田仙北(強首)地震の被害分布に関する文献調査, 日本建築学会技術報告集, 29, 325-328, 2009.
- 2) 水田敏彦, 鏡味洋史: 1914. 3. 15 秋田仙北(強首)地震の秋田県による震災対応に関する文献調査, 日本建築学会技術報告集, 39, 785-788, 2012.